



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 56 号

2008.9.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

おしらせ

- ー 八幡湿原自然再生工事はじまる

活動報告

- ー 可愛川の水生生物観察会
- ー 龍頭山の昆虫観察会
- ー カワシンジュガイの観察会
- ー 雲月山の観察会
- ー はらっぱ談議

観察会案内

- ー 霧ヶ谷実験地の植生調査
- ー サツキマスの観察会
- ー ゴギの産卵観察会・紅葉と冬芽の観察会

お し ら せ

● 八幡湿原自然再生工事が今年もはじまりました

環境省が補助し、広島県が行う「八幡湿原自然再生事業」の工事が二川キャンプ場の近く、霧ヶ谷で進んでいます。昨年に引き続き、本年度は下流側のエリアを伐採し、導水路を設置します。すでに伐採が終わり、ずいぶん景観が変わりました。これから大きく変化する霧ヶ谷は、注目したいスポットです。

観 察 会 報 告

● 可愛川の水生物観察会

開催日時：2008年8月3日（日）13:00

講師：内藤順一

じりじりと照りつける太陽のもと、29名の参加者が千代田中央公民館に集合しました。観察会を行う可愛川まで移動して川に入ると、さあ！観察会の始まりです。今回の講師は内藤先生です。この日は水位が低く、お目当てのオオサンショウウオの姿が見えず、内藤先生は岸边をずっと調査されていました。その間子どもたちは、堰のところにたくさんの魚がいるとのことで、夢中で網ですくったり、追いかけていたりしていました。水槽に入れ、後で先生に名前を聞きました。オスの婚姻色が美しいオイカワ、ナマズのようなギギ、砂に潜る習性があるカマツカなど、生態や特長などを教えてもらい、参加者からも、地元での呼び方など興味深い話も飛びだしていました。一方オオサンショウウオも、先生と参加者の粘り強い搜索で、岸边のクサヨシの奥にいた2匹を捕獲しました。計測ができる場所に移動し、調査の開始です。まずはオオサンショウウオがどんなものを食べているかを調べるために、口の中に水を入れ、はき出させます。オオサンショウウオを初めて間近でみる子どもは、おそろおそろその様子を見ていました。出てきたものは、植物の根っこ、自身の脱皮片です。夏場は魚の動きが早いので、エサとりにも苦労するようです。先生のお話によると、今までの調査では、白菜丸ごと一株やモグラが出てきたこともあるそうです。目の前の動くものをなんでも捕食する習性があることがよくわかる例でした。体の大きさを計測し、初めて捕獲した個体には識別できるようマイクロチップをつけて、もとの場所に戻しました。オオサンショウウオが棲んでいる川に入り、どんな魚がいるかを見たり、生活している場所をのぞき込んだり、水の冷たさを感じたりと、大人も子どもも、楽しみながら水生生物を知ることができました。[このやよい]

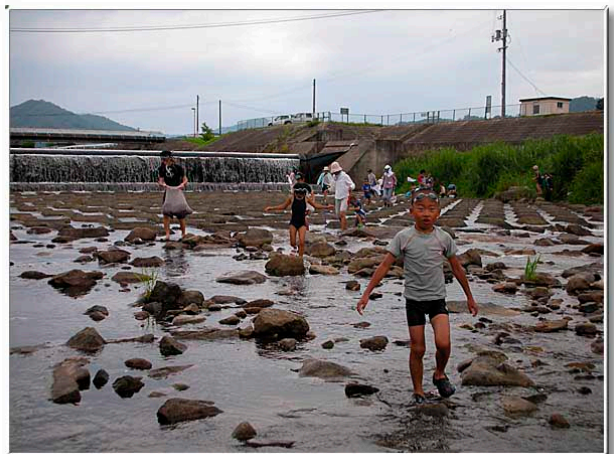
集合場所から現地までの案内が不十分でご迷惑をおかけしました。[事務局より]



千代田中央公民館にて集合し、事故のないよう、注意事項の確認があった。その後可愛川に移動。



川に入り、魚を見つけたり、オオサンショウウオの搜索をしたりとそれぞれに調査開始！



オオサンショウウオの計測のため、場所移動。ネットに入ったオオサンショウウオが重たそう。



まずはオオサンショウウオの姿をじっくり見よう！



たくさんの魚が集まり、後で先生に名前や生態を教えていただいた。



計測開始～。どんなことが始まるか、身を乗り出してのぞき込む参加者のみなさん

【みなさんの印象に残った物】

「オオサンショウウオ感動した」「魚、エビを見た」「オオサンショウウオがとても大きかったこと(3)」「去年は一匹だったけど、二匹見たのでよかったです。」「オオサンショウウオ(9)」「やっぱりオオサンショウウオ」「オオサンショウウオをいっぺんに二匹見たこと」「オオサンショウウオの胃の内容物調査」「魚がとれたこと。」「オオサンショウウオ. 2～3億年前の時代に会った感じです。」「オイカワの婚姻色」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「おもしろかった(2)」「魚よかった」「大変暑かったですけど子供たちの楽しい姿がよかった」「たのしくできた！！イエイッ」「たのしかったです。(2)」「オオサンショウウオをはじめてみれてよかったです。オオサンショウウオは大きかったです。」「いろんないきものがみれてよかった」「オオサンショウウオがさわがにをたべるとは思いませんでした。」「多種類の川魚が見ることが出来良かった。」「オオサンショウウオが大きくてびっくりした」「子供達が自然にふれることがとてもよい」「参加者が全員楽しんでた」「楽しみにしていたので、オオサンショウウオを見ることができてよかったです。」「大きなオオサンショウウオを間近で見ることができてよかったです。」「堰にたくさん魚がいて驚きました。それを食べにオオサンショウウオが堰に集まるのに納得しました。」



計測後、水に放たれたオオサンショウウオ。意外に素早い動きで、茂みを探して移動した。

観 察 会 報 告

● 龍頭山の昆虫観察会

開催日時：2008年8月3日（日）17:00

講師：清水健一

可愛川の観察会に引き続き、龍頭山でライトトラップを使用した昆虫観察会を行いました。講師は清水先生です。参加者は小学生4人を含む12名でした。ライトトラップは暗くなってから開始するとのことなので、日が落ちるまで、近くの滝を見学に行くことにしました。水音が暑さを吹き飛ばしてくれるようで、心地よい散策となりました。また、腹ごしらえをしたり、子ども同士は自己紹介をしたり、大人は昆虫や植物の情報交換をしたりと、有意義な待ち時間を過ごしました。ライトトラップとは捕虫用ライトとブラックライトの2種類を点灯し、白い布に集まってくる昆虫を観察する方法です。今回は頂上ではなく、中腹の標高約700mの駐車場で行いました。コガネムシがとても多く、おなじみのオオミズアオ、きれいなアゲハモドキなどが次々と集まってきました。参加者から先生に「これはなんですか？」と質問の嵐でしたが、先生もひとつずつ丁寧に答えてくださり、ガの奥深さにはことさらびっくりしました。子ども達のお目当てのクワガタやカブトムシが飛んでくると「きたきたー！」と大歓声があがっていました。子ども達はたくさんの虫にびっくりしつつも、清水先生にガとチョウの違いを聞いたり、ガの名前を覚えようと何度も口にしてみたりと、観察会を満喫しているように見えました。2時間ほど観察して終了となりました。最後に清水先生にまとめをしていただき解散となりました。[こののやよい]

昨年の昆虫観察会は龍頭山山頂直下の駐車場で行いましたが、今回は中腹の駐車場で行いました。飛んでくる虫に違いがあるのかが興味がありましたが、まあ、そんなことは置いて子供達もうれしそうだったし、楽しい観察会ができたものと思っています。子供達のお目当てのクワガタムシは雌が多く、その他コガネムシ類、オオミズアオ、スズメガ類、アゲハモドキ、カマキリモドキ等が人気がありました。その中でも大人でも素手で捕まえるのは、はばかられるほど大きなクチバスズメを驚ぶかみにして喜

んでいる女の子には驚きました。女の子は年令と共に虫嫌いになっていくようで、お母さんの影響が大きいように思います。これからもずっと虫好きで育ててほしいものです。皆さん帰られた後、日本一大きいかみきりむしシロスジカミキリ、カブトムシの雄、ノコギリクワガタの雄等が飛んできました。子供達の喜ぶ姿がなく残念な思いがしました。いずれにしても、夜も多く虫達が活動していることがお分かり頂けたことと思います。[清水]



子どもたち4人は自己紹介。さあ、これで観察会仲間になったぞ～。



待ち時間を利用して駒ヶ滝の見学。涼をもらった。



着々と準備される清水先生。



写真を撮ったり、ケースに入れて観察したり、先生に名前を聞いたりそれぞれの視点で楽しんだ。



光に集まるムシに集まるヒト。

【みなさんの印象に残った物】

「カブトムシのメスです。大きいのがとれた事」「手づかみでガがとれたので、うれしかったです!」「カナブンが多かった。クワガタもやってきて子ども達はよろこんだ」「大量の虫!!」「アカカシクワガタをつかまえたこと」「たくさん虫を見たこと。」「クワガタとカブトムシ」「カマキリモドキ」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「時期によっても場所によっても虫の種類がちがいがあつた事を知りました」「これをやっていつもとりたくなりました。」「昨年と同じ山でも場所が変わるとやってくる虫等もちがう」「ライトトラップは初めてでした。いろいろな虫に会えて感動でした。」「またこのかつどうをしたいです。」「カマキリモドキがカマキリにそっくりだったのでおどろきました。」「暗くなるまでの時間も滝に行ったり話をしたりして過ごせて楽しかったです。」「楽しかった」



捕まえたムシをすぐさま先生にみてもらおう。

観 察 会 報 告

● カワシンジュガイの観察会

開催日時：2008年8月10日（日）9:30

講師：内藤順一

夏休み真っ盛り、快晴の観察会日和となりました。集合場所の文化ホールには日焼けした子どもたちが、元気よく集まってくれました。今回の講師は内藤先生です。20名の参加者のみなさんと、文化ホールの一室でスライドを見ながら、カワシンジュガイの生活史などを内藤先生よりレクチャーしていただきました。カワシンジュガイは北広島町の天然記念物となっています。カワシンジュガイの生息地は全国でも大変少なく、貴重な生き物だということが、配られた資料からもよくわかりました。今回観察する川では、近年の調査の結果、1200個体確認されているそうです。

お話を聞いた後、車で川に向かいました。去年より少し下の位置です。一面張りの川で、幅が細いため、一列になって進みます。ヘビの抜け殻やオタカラコウの大きな葉っぱなど、目を惹くものもたくさんありましたが、目指すのはカワシンジュガイ！川のはしっここの茂みの下を手で探ると、石のようなものが当たります。「あっ！」と思い、つかんでみるとやはりカワシンジュガイでした。手触りはかたい石のような、濃い茶色の貝です。スライドでみていたものの、やはり実物を手にするとうれしさがこみ上げてきました。どんなところに生息しているのかじっくり見た後、貝の観察もしました。少しあけていた口から中の様子も見る事が出来ました。観察後、元通りにもどすため、貝の向きや立て方を先生に聞き、水に手を入れ、そっと貝を砂に立て、上流に口をむけて置きました。そうする間も、参加者の表情は真剣で、貴重な体験をしている緊張感が伝わってきました。川に入っている時間は短かったですが、現地でカワシンジュガイと出会うことができました。またカワシンジュガイに産卵するアブラボテも、今ではこの川で一番多い種類の魚となったそうです。カワシンジュガイが産卵し、幼生が育つために必要なアマゴだけは姿を見ませんでした。毎年アマゴの放流をしているそうですが、近年増えているアオサギに食べられて、いなくなるのだろうということ

した。カワシンジュガイが生存していく環境には、様々な課題も見えてきましたが、氷河期の生き残りとして芸北に生息しているこの現状を、大切に守っていきたいなあと感じる観察会でした。[このやよい]



カワシンジュガイの調査地の様子の写真を見る。立ち貝の別名の通り、川の中では縦に立っている様子がよくわかった。



いよいよ川に入る。先週の千代田の可愛川とは違ってかわり、水が冷たく感じた。



カワシンジュガイがいそうな場所に手をさしこみ、探してみる。



魚を追って、深いところまでやってきた。



砂の中から半身を出し、少し口をあけている個体。昔は、ネコジャラシのような長い穂を差し込み、貝を釣っていたというお話も聞いた。



見つけた個体をじっくり観察。大きさもいろいろだった。

【みなさんの印象に残った物】

「久しぶりにカワシンジュガイを見た事。(2)」「アブラボテがたくさんいたこと.」「初めて観察できたこと.」「シンジュ貝でなかったのでショック.」「カワシンジュガイのことがわかった.」「カワシンジュガイが見れた.(3)」「カワシンジュガイがいっぱいいたのがすごかった.」「貝をさわったことがとても楽しかったです。(2)」「シンジュガイがみれてうれしかったです.」「貝が大きかったことと.カエルがミミズを食べていたところ.」「カワシンジュガイの川での生息が見えたこと.」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「勉強になりました.」「子ども達も今日はとても楽しそうだった.」「案外多くの貝がいるのだなあと思った.」「アマゴがないなあと思いました.」「自然の状態を観れてよかった.」「楽しい!!」「川に、いっぱいカワシンジュガイがいると思わなかった.」「童心にかえれた.」「また魚や貝をじっくり見てみたいです.」「また川に入りたいです.」「夏の暑い一時を川での観察で子ども達の楽しそうな姿がよかった.」

観 察 会 報 告

● 雲月山の植物観察会

開催日時：2008年8月23日（土）13:30

講師：佐久間智子、和田秀次

少し曇り気味の空のもと、33名のみなさんが雲月山の駐車場に集合しました。この観察会は、翌日に行われた“はらっぱ談議”の関連行事だったため、県外からの参加者も多く集まりました。今回の講師は、和田先生、佐久間先生です。最初に雲月山の地図を見ながら、毎年の山焼きの状況や今日のコースなどの説明がありました。また、佐久間先生の調査によると、雲月山に生息する植物の種類は330種ということで、参加者のみなさんはその種類の多さに驚いていました。お話のあと、空模様を心配しつつ出発しました。秋の七草のうち、雲月山には6種生息しているということで、ハギ・クズ・オミナエシ・キキョウ・ススキ・カワラナデシコを見ることができました。登山道を登りながら、目に入る草花の名前を聞いたり、匂いをかいだりしました。和田先生は、「きれいに咲いている花だけでなく、草原をつくる植物にも目を向けて欲しい」とお話しされ、トダシバやオオアブラススキの紹介もありました。休憩をしながら、ゆっくりと歩き、ひとつひとつの植物をじっくりと観察しました。昔は葉の裏の綿毛を火口（ほくち）にしていたというハバヤマボクチや、ススキに寄生し、葉緑素を持たないオオナンバンギセルなど、草原ならではの花も楽しみました。また、山焼きが行われていない島根県側のササの丈が高かったり、火入れが行われた場所には花が増えていることに驚いたり、山焼きの効果も目の当たりにしました。地元の参加者もいたため、次回の山焼きについての話題もでてきていたようです。車道に出て、白色のママコナや、釣り鐘型の花が可愛いサイヨウシャジンなどを観察し、参加者同士で感想を話したり、情報交換をしながら、駐車場に戻りました。まとめ時に佐久間先生より「観察会開始前は、雲月山に生息する植物は330種だったのですが、今日でまた増えました。」という、とてもうれしい報告がありました。毎年楽しみな雲月山の植物観察会ですが、今年も新たな植物に出会え、観察できたことに感謝しつつ帰路につきました。[このやよい]



一列になって登り始める。風が少し冷たく感じた。



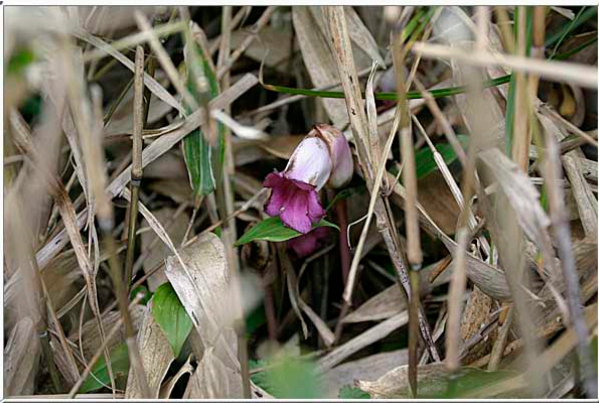
オミナエシの匂いをかいでみる。どんな匂いかな？



「ここから火入れをする山が3つ見えるんですよ」とぐるりと周りを見渡してみる。深入山・雲月山、この日は見えなかったけれど三瓶山。



「おーい」と皆を呼び戻して発見した花を順番に観察。



ススキの近くにひっそりと咲いていたオオナンバンギセル。



この日も和田先生のギャグが炸裂。新作も聞かせていただきました。

【みなさんの印象に残った物】

「ウツボグサ. アカモノ. オオナンバンギセル. ハギ. キキョウ. オミナエシ.」「オオナンバンギセル (5)」「多種の植物が確認できたこと.」「小さな野花がきれいだった.」「オオナンバンギセルを見つけたこと.」「草原の草花に多く出会えたこと.」「オミナエシ. ススキの穂の景色.」「みなさんゾウケイの深いことには参った.」「オオナンバンギセルともう咲いていたマツムシノウ.」「オニヤンマ」「牛のいる場所の様子 (土がみえるくらいになっている様子)」「オミナエシの黄色が鮮やかでした.」「暑くなかったので楽しく歩けた.」「花畑」「ハバヤマボクチ. 覚えました.」「草原の草花」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「とても楽しかったです.」「涼しくて. 一足早く秋を感じました.」「センブリ, キキョウ等の花がだいぶ増えている.」「もう少しテンポ良く歩いても良いのでは?」「初めて見る事ができました.」「久しぶりの歩きで大変楽しく過ごせました. ありがとうございます.」「初めてでドキドキでしたがきて良かった.」「放牧に関心 (良い意味でも悪い意味でも) を持つ方も多いので, 放牧場や牛についての観察もこれからはおもしろいかも!」「植物の特徴について聞いたことが良かったです. (見分け方 etc)」「色んな発見がありました. ありがとうございます.」「地元の者も少しは知識はあった方が良くと思います.」「秋風でしょうか. とても気持ちがよい一日でした.」「みんなたくさん草花の名前を知っている.」「草丈. 草の色こんなにやれるものなんですね.」「牛の入っているところが随分変わりましたね.」「島根県側のササの丈が高くやはり山焼きの効果があるんだなと感じました.」「色々な花に出会えた. 先生が多くおられたので. 多く教えて頂けて良かった.」「涼しい天候で助かりました.」「涼しくて気持ち良かったです.」「草原というものには人間そのものをいやす力が, あると思います. それがこの雲月山の草原にも, 満喫できるほどあると思います. それを支えている人々の努力はすばらしいと感じます.」

観 察 会 報 告

● はらっぱ談議

開催日時：2008年8月24日（日）9:00

来年、北広島町で開催される全国草原サミット・シンポジウムにさきがけ、はらっぱ談議が大朝保健センターにて開催されました。このはらっぱ談議は、草原利用の先進地である阿蘇での活動の基調講演をはじめ、北広島町での草原保全活動の事例発表やパネル展示で、草原の生物や保全の意義をみなさんとともに考え、探ろうというイベントです。当日は約100人の参加がありました。会場には草原の保全活動に参加された方達から寄せられた写真が展示されており、山焼きの様子や、その後咲いた植物の様子などがそれぞれの視点で撮られ、目を楽しませてくれました。他にも、全国の草原の現状や変化、また雲月小学校での取り組みなどが、わかりやすくパネルで展示されており、参加者は熱心に見ていました。竹下町長のあいさつに始まり、基調講演、事例発表と続きます。山下康二氏より阿蘇での取り組みのお話を聞くと、阿蘇の自然と人の営みがうまく関わり合い、都市と農村の連携が、草原の保全や地域振興につながっていることが、よくわかりました。同時に、北広島町で活かせるたくさんのヒントをいただいた気がします。雲月小の児童による発表では、雲月山は地域の宝で、ずっと大事にしていきたいという願いを、強く感じることができました。児童が「I love Uzutsuki」を歌い始めると、自然と笑顔になり、会場はあたたかく優しい空気に包まれました。続いて雲月山をフィールドとし、精力的に調査をされている佐久間智子氏からは、雲月山の植物についての発表がありました。雲月山の植物は330種もあるというお話には大変驚きつつ、やはり山焼きの必要性を再確認しました。それから、千町原で草原保全活動の中心となっている川内信忠氏より、様々な取り組みの紹介や、草原保全の課題についてのお話がありました。ボランティアの力の大きさと、地域活性への熱い思いを感じました。以上のお話を聞いた後は、3カ所の会場にわかれ、参加者全員で座談会を行いました。草原の活用方法や刈り取った草の利用法、自然について感じる事、といったお題にそって、座長を中心にざっくばらんな雰囲気

意見を交換しました。参加者の中には阿蘇や三瓶、秋吉台などから来られた方がおり、他地域での例を聞くこともできて、有意義な座談会となりました。もとの会場にもどり、各座談会ごとの報告会を行いました。ここでも草原の価値を確認し、保全や環境教育の重要性をひしひしと感じました。参加された方にはアンケートに答えて頂き、「他地域での取り組みを聞くことが出来よかった」「子ども達の熱心な姿を見ることができてよかった」「座談会では時間を忘れて熱中した」という声をたくさんいただきました。来年は北広島町で全国草原サミット・シンポジウムが開催されます。草原の未来について、多くの人と学び語り合える場になることを願いつつ、はらっぱ談議は幕を閉じました。

[このやよい]



阿蘇での取り組みをお話される山内康二氏。



興味がわいた内容はすぐメモをとる児童たち。その熱心さには多くの参加者が驚いていた。



少ない人数ながら明るく熱心に勉強している雲月小の児童たち。歌い終わった後、会場は大きな拍手にわいた。



“草原を見守る目”と題された、はらっぱに来てはらっぱを守るひとたちによる はらっぱ写真。



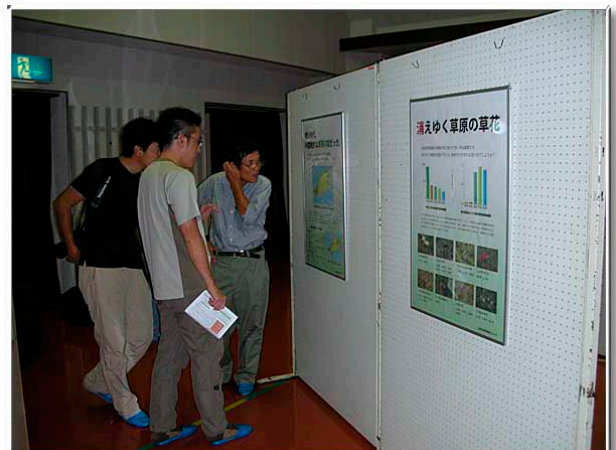
発表後、3グループに別れて座談会をした。阿蘇、雲月、千町原と各地域での活動の例を交えながら、楽しく談議。



雲月小の児童が学習したさまざま。楽しそう！！



各座談会の報告。こどもからでた「雲月だけでなく地域にある他の自然も守りたい」という意見はうれしい。



ここでもプチはらっぱ談議！？

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 霧ヶ谷実験地の植生調査

開催日時：2008年9月20日(土) 9:30
集合場所：高原の自然館
準備：作業セット
定員数：30名
参加費：無料

霧ヶ谷湿原の再生をする根拠としても働いた、実験地の植生調査をします。毎年、湿原の植物が徐々に増えてきていますが、今年はどうでしょうか。調査などの経験のない方、植物をじっくり見てみたい方など、どなたでも参加できますよ。少しだけ、再生事業に関わってみませんか？

● サツキマスの観察会

開催日時：2008年10月13日(月) 9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：内藤順一
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、小学生以下は無料)

アマゴが海に下り成長したものをサツキマスと呼びますが、八幡では聖湖を海にみたてた降湖型サツキマスが柴木川に遡上してきます。現地の川に行き、実際に産卵の様子を見てみましょう。サツキマスの生活史など、興味深いお話も聞くことができます。秋が深まり気温も下がってきます。室内でも現地でも防寒対策をしっかりとお願いします。

● ゴギの産卵観察会・紅葉と冬芽の観察会

開催日時：2008年11月8日(土) 9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：内藤順一、斎藤隆登
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、小学生以下は無料)

サツキマスよりやや遅れて、ゴギが遡上し産卵を始めます。昨年はメスが産卵床を作る行動や産卵後の「舞の行動」を観察することができました。今回も産卵の様子がじっくりと見られるといいですね。

続いて紅葉と冬芽の観察会を行います。花が咲いている時期では分からない植物の特徴を、先生お手製の資料を見ながら詳しく観察しましょう。ルーペがあるとさらに細かいところまで観察できおもしろさが倍増になります。冷え込む事が予想されます。防寒をしっかりとお願いします。

今後の観察会予定

2008年
11月23日 千町原の草刈り
12月6日 巣箱・かんじき作り
7日 野鳥の観察
2009年
1月18日 冬を生きる動物たちの生態
2月21日 雪原のトレッキング
3月8日 雪原のトレッキング

春に野焼きをした千町原を歩いてみました。句碑の向かい側は一面のススキが穂をなびかせています。開いた穂が銀色に光る時期もきれいなのですが、花が開く直前の、赤い色の波は、また違った赴きがあります。サクラの花が咲く前に、桜並木全体が赤く浮かんで見えるような感覚と似ているような気がします。波の色が銀に変わる頃、また歩いてみようと思いました。秋です。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info